

【港育成園】

港育成園は現在、利用定員40名で43名の利用契約者にサービスを提供しています。29年度内に1名の新規利用がありました。経営面で見ると、実利用実績が定員に近づきつつありますが、安定した運営を目指すために年に若干名の新規契約者は募集していきます。

また、利用率の上昇を図るとともに障害支援区分の訪問調査に同席するなど適正な支援区分認定に努めた結果、収入の安定にもつながりました。

その一方で、平均区分の上昇などで人員の確保が課題としてあがってくる中、非常勤スタッフの採用を積極的に進め、30年度からの人員配置基準1:3に対応できるよう準備をしました。

今後はスタッフの増員とサービスの質の向上のため、非常勤スタッフの育成にも力を注いでいくようにします。

27年度から3年間にわたって進めてきた大規模な改修については、29年度で全館の改修をほぼ完了し、利用者の方々や事業所に関わる方々に快適な利用を提供することが出来ています。

今後は備品などの整備や清掃などによる清潔の維持をし、より快適な環境を提供していけるよう努めていきます。

【港第二育成園】

港第二育成園では、29年度から就労継続支援B型事業単体の運営となりました。

利用者の様々な形態の『働きたい』というニーズに応えるべく、事業所内での作業の充実、工賃の向上にとどまらず、事業所外実習、企業内体験実習支援の充実に努めました。

また、余暇活動の一環として第4日曜日を休日開所日とし、サークル活動(パン作り・軽スポーツ)を行いました。加えて29年度より作業工賃の向上、利用率向上のため、土曜日を作業に特化した取り組みとして希望者を募り、試行的に年7回開所しました。

これら以外にも、従来の日課とは別に支援学校卒業後に在宅になられた方、企業就労からリタイヤされた方の相談、見学、体験実習を積極的に受け入れ、短時間日課や週3回の通所契約など従来の週5回、9時から16時の日課にこだわらず、個人に合わせたサービス提供時間、利用日数を提案し毎日通所することへの前段階としてリハビリ通所等の柔軟な日課の作成、提案を行いました。

29年度では、今後も継続して支援を円滑に行い、安定した運営ができるよう、優先すべき課題として利用者の定員充足に向け、支援学校との連携に留まらず、専修学校等への働きかけ、見学会、体験実習等の啓発活動に努めました。

【ワークスいけじま】

ワークスいけじまでは、29年度当初、利用者16名でスタートしました。年度内に1名が新規利用され、年度末での利用者数は17名となりました。利用者の平均年齢としては52.1歳であり、最年少が43歳、最年長は68歳と、幅広い年齢層の方が利用しています。

また、利用者の生活面においては、単身世帯が7名、子どもと同居が1名、グループホームが3名、親兄弟等と同居の方が6名となっています。親と同居の方についても、ほとんどが一人親で老齢のため、家庭に期待できる支援力は低くなっている現状があります。このため、安定的に通所を続けて頂くためにはグループホーム・相談支援事業所・居宅介護事業所・訪問看護事業所・あんしんサポート・区役所などの関係機関との連携が不可欠になっています。

一方、ハード面では建物も築20年が過ぎ、各所に老朽化が目立つようになってきています。今後の事業展開を検討する必要があり、29年度では大規模な改修は見合わせましたが、ブラインド、ロールカーテン、炊飯器をはじめとした備品の更新を実施しました。今後の事業展開のためにはバリアフリー化も含めた改修が必要と考えています。

【メープル】

メープルでは、地域に根ざす生活を支援しています。生活の基本である衣食住の支援はもとより、利用者それぞれのその人らしい暮らしを共に考え、実現することを目指しています。

29年度は、個別支援計画の手法を見直し、本人の現状を確認しながらエコマップを作成することで、潜在的な希望や不満を引き出すことができました。

利用者の希望や必要な支援を見直すことで、支援員や世話人の業務が明確化し、サービス管理責任者を中心に、効率の良い支援方法と役割分担について検討を行っています。これにより、一人暮らしをすることを躊躇していた人も自活されましたが、一方で利用者の減少により空き部屋が生じるなど、新たな要因も生まれています。